



2021年12月22日

日本鉄道労働組合連合会

JR四国連合「第27回定期大会」

加盟組合一丸となってJR四国グループを魅力ある職場に

JR四国グループ労働組合連合会（JR四国連合）は、12月17日、高松市「喜代美山荘 花樹海」で、第27回定期大会を開催し、加盟単組・労使が一丸となってこの難局を乗り越え、安全・安心で将来に希望が持てるJR四国グループの創造に取り組むことを確認した。



冒頭、挨拶に立った大谷清会長（JR連合副会長・JR四国労組中央執行委員長）は、日夜業務に精励している組合員に敬意を表した上で、①安全の確立、②組織の強化・拡大、③2022春闘をはじめとする諸労働条件の改善にむけた取り組みについて所信を述べるとともに、JR四国連合の取り組みを振り返り、「苦しい時こそ労働組合の存在意義が問われる。今こそ加盟組合一丸となって

JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくりに取り組まなければならない。」と代議員各位に呼びかけ、今後展開する諸活動へのより一層の協力・連携を要請した。

また、JR連合からは荻山市朗会長と鎗光俊勝労働政策部長が出席し、代表して荻山会長が挨拶を行い、①コロナ禍における政策課題の解決にむけた取り組み、②2022春闘に対するJR連合の考え方、③集团的労使関係の重要性について所信を述べた。

議事では、事務局より提起された議案に対して代議員から、2022春闘を迎えるにあたってJR四国連合としての姿勢や取り組み、今後の雇用調整助成金の特例措置延長に対する考え方や要望、改正女性活躍推進法の施行を見据えた女性の就労環境の改善にむけた取り組みについて発言があった後、事務局からの総括答弁を経て、全議案が満場一致で採択された。その後、新役員や大会宣言が採択され、大谷会長の「団結がんばろう」で閉会した。

